 <b>座間市情報提供（事業、制度など）</b>		情報提供日
		令和8年4月22日
タイトル	地域づくり部参事「連携強化担当」および「ざま共創官民連携窓口」の設置	
内容(概要、目的、導入の背景など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり部に「連携強化担当」を新たに配置（令和8年4月1日付）</li> <li>・近年、企業や大学等から、市の地域課題の解決や地域資源を活かした連携に関する提案が増加。こうした動きを一過性のものにせず、確実に事業化・価値創出につなげていくため、提案や相談を一元的に受け付け、庁内調整を一体的に行う機能を整備</li> <li>・連携強化担当は、“窓口兼コーディネート機能”を担うもの</li> <li>・提案を受け、市の重点施策との整合性、地域課題への適合性、実現可能性、費用対効果などを踏まえ、関係課と連携しながら精査し、具体的な事業へとつなげる</li> </ul> <p>※すべての提案を受け入れるものではなく、連携強化担当が各課の意思決定を代替するものでもありません。最終的な事業実施の判断は、従来どおり所管課が責任を持って行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の設置により、庁内外の連携をより円滑にし、民間の知見や活力を活かした、効果的で持続性のある施策を推進</li> </ul> <p>「ざま共創官民連携窓口」</p> <p>窓口設置場所：座間市役所 4階 地域づくり部 TEL 046（252）7966（市民協働課）</p> <p>※運用の試行開始は4月22日を予定</p>	
セールスポイント	<p>窓口の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓口の明示によるアクセシビリティ向上</li> <li>・ 迅速な庁内調整：関係課との調整を担当者が一元的にコーディネート</li> </ul>	
スケジュール	<p>試行実施期間：令和8年度</p> <p>目標：企業等と市が連携した共創案件を創出し「座間モデル」としての官民連携の枠組みの確立を目指します。</p>	
定員、対象者など	<p>主な対応内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等からの提案・相談の受付</li> <li>・企業等と事業担当課のマッチング・橋渡し（案件例）</li> <li>・地域資源を活用した企業等との連携による魅力創出</li> <li>・企業等による市民協働・地域コミュニティ・NPO活動の支援</li> </ul>	
その他	予算なし	
問い合わせ先	<p>地域づくり部市民協働課</p> <p>TEL 046（252）7966</p>	



# 「ざま共創官民連携窓口」 試行設置について

座間市地域づくり部

# 「ざま共創官民連携窓口」 試行設置について

## <目的>

企業等からの多様な提案を迅速に受け止め、関係課との調整を一体的に行うことで、スピード感ある案件化を図り、企業等と行政が連携する「共創」の仕組みの構築。

## <背景>

座間市では、これまで「相互提案型協働事業」や生活困窮者自立支援の「チーム座間」をはじめとする市民協働・官民連携の実践を通じて、NPOや地域団体との信頼関係を着実に築いてきました。近年では、企業・大学等（以下、企業等）からも、地域の強みを活かした連携や市民協働に関する多様な提案が寄せられるようになっていきます。

こうした企業等の積極的な動きを、より迅速かつ効果的に受け止め、関係課との調整を一体的に行うことで、提案の「出会い」を「価値ある共創」へと確実に結びつける仕組みが必要となっています。

## <対応策>

座間市が抱える地域課題の解決と地域活性化を加速させるため、官民連携を戦略的に推進する必要があります。

この課題を解決するため、企業等からの提案・相談を受け付ける

**「ざま共創官民連携窓口」を令和8年度に試行設置します。**



# ざま共創官民連携窓口

(愛称：ZAMA Living Gate)

窓口設置場所：座間市役所4階 地域づくり部  
電話番号：046-252-7966 (市民協働課)



## <主な対応内容>

- 企業等からの提案・相談の受付
- 企業等と事業担当課のマッチング前のロジックモデル作成
- 事業担当課への橋渡し  
(案件例)
  - ・地域の強みを活用した企業等との連携による魅力創出
  - ・企業等による市民協働・地域コミュニティ・NPO活動等の支援

## 企業等のメリット

- ・地域課題解決を通じた企業価値向上とブランディング
- ・座間市との継続的なパートナーシップ構築（関係人口・ファン化）
- ・新規事業開発・実証実験の場としての提供
- ・市内ネットワークとのマッチング

## <窓口の特徴>

- ・ **窓口の明示によるアクセシビリティ向上**：窓口のわかりやすさ
- ・ **迅速な庁内調整**：関係課との調整を担当者が一元的にコーディネート

## <実施期間と目標>

実施期間：令和8年度（試行）

目標：企業等と市が連携した共創案件を創出し、  
「座間モデル」としての官民連携の枠組みを確立する。

# ロジックモデル

インプット  
(投入資源)

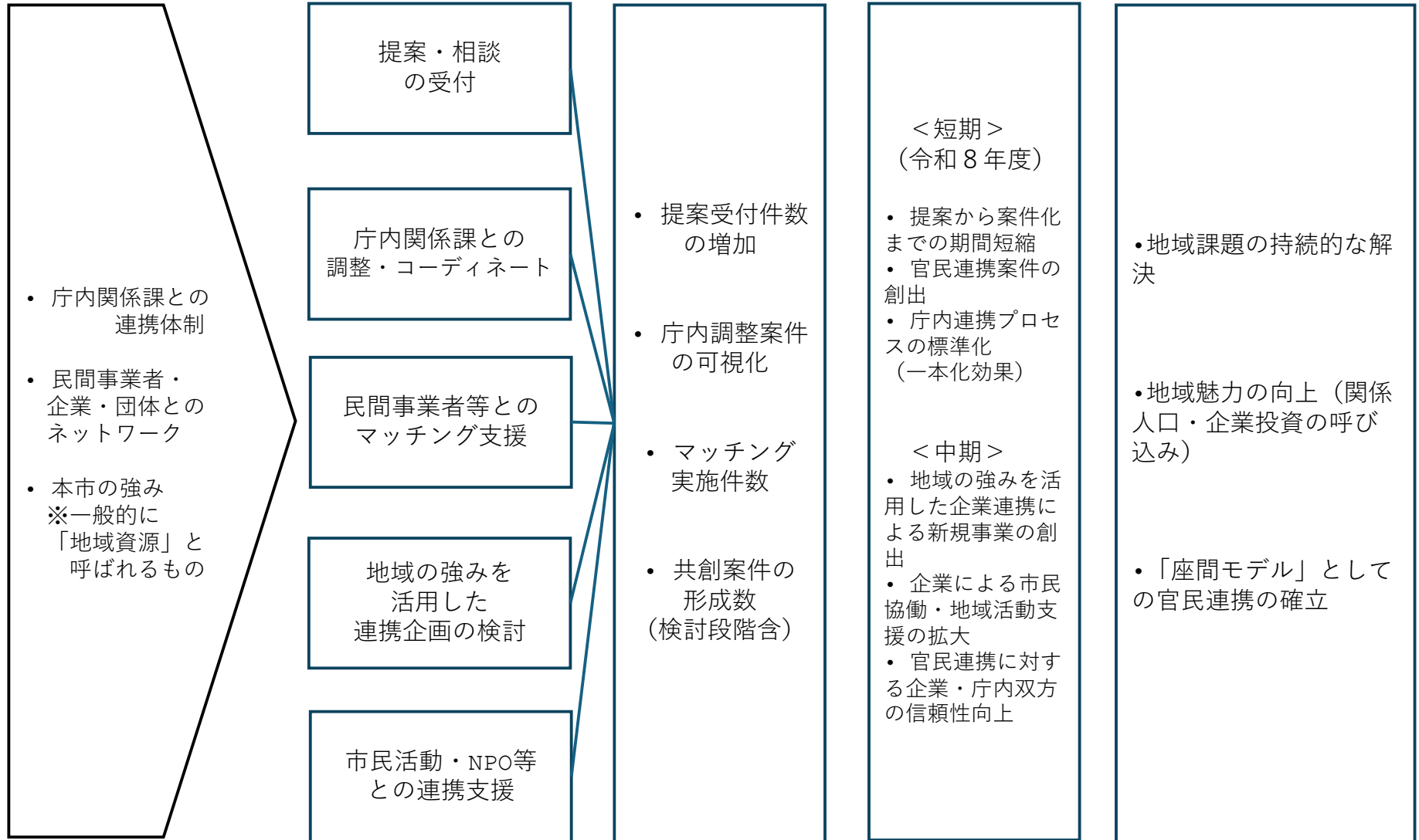
アクティビティ  
(活動)

アウトプット  
(直接成果)

アウトカム  
(短期・中期成果)

インパクト  
(長期的成果)

5



ロジックの核 (因果の流れ)

窓口の明示 → 調整の迅速化 → 案件化の加速 → 成功事例の創出 → 信頼の形成 → 連携の拡大 → 地域価値の向上

# 業務フロー

①企業等提案受付

②内容整理

③関係課ヒアリング

④マッチング・調整

⑤試行ロジックモデル作成

⑥案件化判断（各所管課）

「**ざま共創官民連携窓口**」  
(愛称：**ZAMA Living Gate**)  
が①～⑤を担当

## <提案の取り扱い>

・本窓口は、**全ての提案の受け入れや即時事業化を約束するものではなく**、本市の重点施策・地域課題との整合性、実現可能性、費用対効果等を踏まえ、**慎重に検討・精査を行います**。

・本窓口は各課の意思決定を代替するものではなく、あくまで調整・整理機能に特化します。**最終的な実施判断は各所管課が担います**。

・既存の事務事業を置き換えるものではなく、既存施策との連携・補完を図りながら、官民連携による新たな価値創出を目指します。

・関係課との協議の結果、実施に至らない場合があることを了承いただきます。

## ざま共創官民連携窓口 令和8年度試行実施

本窓口は愛称を「ZAMA Living Gate」とし、個別の共創プロジェクトを「TRIP」と呼称します。TRIPとは、Trust（信頼関係の構築）・Relation（関係性の継続・深化）・Innovation（共創による新たな価値の創出）・Partnership（官民の対等で持続的な連携）を体現する座間市独自の共創プロセスです。

これは関係性が一過性で終わらず、育ち、広がり、次の旅へとつながっていく「ZAMA Living Ecosystem」を象徴します。（公式文書では「共創プロジェクト（TRIP）」と併記）

### < 主なKPI >

- 提案受付件数
- 初回相談から庁内調整開始までの日数
- 案件化率（受付提案のうち具体化に至った割合）
- 共創案件数
- 企業連携による地域活動支援件数

### < 設計上のポイント >

- 本施策の核心は「制度」ではなくコーディネーション機能にある
- 成果評価は「件数」だけでなく、\*\*スピードと質（案件化率）\*\*を重視

**成功の鍵は「最初の1件（モデル事例）」の着実な創出**

（試行実施により“再現可能な成功の型”として1件目を設計することが目標）

# (参考) ざま未来プラン

1 目指すまちの姿

ざま未来プランはまちづくりの指針であることから、前掲合計画の取組結果、市民意向、社会情勢などから考えられる課題を踏まえ、目指すまちの姿を次のとおり定めます。

ひと・まちが輝き 未来へつなぐ

未来

ひと まち

“ひと”が輝く

人口減少社会においても輝くまちであるためには、ひとが輝き、市民力を高める必要があります。

市民一人一人が対等な立場で互いを理解して、心豊かに生き生きと笑顔で暮らせるまちであることを目指します。

“まち”が輝く

ひとが輝くためには、安全・安心で快適に暮らせる生活基盤を築く必要があります。まちの安全が確保され、都市基盤が維持されていることに加えて、市民・団体・企業等の多様な主体との連携、協力により、まちの新たな魅力と価値が創造され、誰もが通いやすく、暮らしやすいまちであることを目指します。

“未来へつなぐ”

ひと、まちの輝きは、未来を担う子どもたちを始めとした次世代に引き継いでいく必要があります。

未来を担う子どもたちが健やかに育つまちであるとともに、ひとの技術や経験とまちの歴史や伝統を受け継ぎ、新たな価値の創造へと発展させ、将来に渡って成長するまちであることを目指します。

そして、市民の活躍がまちの魅力を高め、地域の活性化が安定的な行財政運営につながり、さらなる市民の活躍につながる好循環が実現します。

市民と地域と行政が知恵と力を出し合い連携して、輝くひとと、まちが相互に高め合うことで、ふるさと“ざま”に対する愛着と誇りが深まり、本市が持続的に発展すると考え、「ひと・まちが輝き 未来へつなぐ」を目指すまちの姿とします。

28 29

## 1 目指すまちの姿（抜粋）

### “まち”が輝く

市民・団体・企業等の多様な主体との連携、協力により、まちの新たな魅力と価値が創造され、誰もが過ごしやすい、暮らしやすいまちであることを目指します。

## 2 実現に向けた基本姿勢（抜粋）

### 多様な主体と共に創る「共創」のまちづくり

協働によるまちづくりを推進する一環として、変化し続ける社会環境に柔軟に対応するため、地域課題の把握や事業の目標設定といった初期課題から多様な主体と連携、協力し、新たな価値を創造するまちづくりに取り組みます。

## 2 実現に向けた基本姿勢

目指すまちの姿を実現するために、次の三つをまちづくりの基本姿勢とし、市民・団体・企業等と行政が共有しながら取り組みます。

### 多様な主体と共に創る「共創」のまちづくり

本市では、市民等と行政が対等の立場に立って、相互の信頼及び合意の下、役割及び責任を担い合い、お互いの特性や能力を発揮し合いながら連携、協力して、効果的にまちづくりに取り組んでいく協働を推進してきました。

協働によるまちづくりを推進する一環として、変化し続ける社会環境に柔軟に対応するため、地域課題の把握や事業の目標設定といった初期段階から多様な主体と連携、協力し、新たな価値を創造するまちづくりに取り組みます。

### 目標を意識したまちづくり

SDGsが掲げている「誰一人取り残さない」という理念や、明確な目標としている17のゴールは、共通のキーワードとして広く社会に浸透しています。理念や目標を共有することは、地域が持続可能な発展を遂げる上で重要な視点です。

本市においても、SDGsを意識しながら多様な主体と共に創るまちづくりを進めるために、その目標や手法をそれぞれが主体的に捉え、その進捗状況を共有できる、目標を意識したまちづくりに取り組みます。

### 新たな社会情勢と地域課題に対応した持続可能なまちづくり

人口が増え続けてきた本市が、人口減少へと転じる局面において、人口減少を克服するためには、社会課題の解決や地域経済の成長、地球環境への配慮といった新たな社会情勢と地域課題に対応していくことが必要です。

これまで先人たちが築いてきた財産や、従来から培ってきた考え方を尊重しながら、創意工夫を凝らして、変化に対応できる柔軟な体制を整え、持続可能なまちづくりに取り組みます。